



全国学力・学習状況調査の結果から

4月に行われた3年生対象の調査結果の一部です。一部の特定学力であることを踏まえながら、揖斐川中学校の生徒の学力に関わるよさと課題を知り、今後の生徒の学習姿勢や授業改善につなげていきたいと考えています。

国語 正答率は全国平均をやや下回る

【◎：強みとその要因 ・ ▲：弱み】

◎物語文の読み取り

→朝活動の時間に、学級ごとに図書館を利用する日を設定して本を借りている。また、1・2年生は毎朝、3年生は週に2日朝活動として10分間の読書を行っている。そのため、読書の習慣が身に付き読書に親しみをもっている生徒が多い。

▲分かりやすく伝わる文章を書く力がやや弱い。

▲根拠を明確にして考えることが不十分である。

【「国語」授業改善の方向】

- ・さらに伸ばすために、根拠を大切にした物語文の読み取りを進めていく。
- ・表現する場を授業内で意図的に多く設け、粘り強く指導する。伝え方（知識面）から押さえ直し場面ごとに押さえるなど丁寧に指導を行う。
- ・根拠を繰り返し問い、明確にすることに慣れるようにする必要がある。



数学 正答率は全国平均をやや下回る

【◎：強みとその要因 ・ ▲：弱み】

◎データの活用や確率については県の平均と差はない。

→学習進度に遅れがなく、時間的に余裕をもって丁寧に指導することができている。

→図や表、具体物などで視覚的にとらえることがよくできている。

▲素因数分解の問題や関数領域の変化の割合を答える問題など基礎的な学習内容の定着が必要である。▲無回答率の傾向がやや高い。

▲数や図形の性質について説明する力が弱い。

【「数学」授業改善の方向】

- ・授業の中で習熟を図る時間を確保するために時間配分を工夫する。また、家庭学習でワークなどを使ってその日のうちに復習する。
- ・教え合いでわかったつもりになっているが、自力で問題を解決することが不十分である。個で追究する時間を十分確保する必要がある。
- ・長い問題文でも整理して読み取り、粘り強く考えながらわかるまで書くようにする。



理科 正答率は全国平均と同等

【◎：強みとその要因 ・ ▲：弱み】

◎生きる知識・技能の定着

→問題・文章の意図をくみ取って、適切な知識・技能を解答することができている。授業内で知識の概念の定着が図れている。

◎科学技術の領域が強い

→科学技術の領域である「粒子」「エネルギー」の正答率が全国平均を大きく上回る。論理的に物事を考えていく領域が得意である。

▲思考・判断・表現の資質・能力の定着が弱い。

▲無回答率の傾向がやや高い。 ▲学力の2極化がみられる。

【「理科」授業改善の方向】

- ・教え合いながら理解したことを確認する場を定期的につくる。
- ・予想・仮説の授業前段と結果を分析・解釈し、さらにはその妥当性を考える授業終末が弱い。調整型自力解決を目指す。
- ・授業前段で予想・仮説を共有し、学びを調整しながら学習を進める。
- ・学力診断テスト等でも、記述欄には部分点を設け、評価基準を明確にしていく。



質問紙に見られる揖斐川中学校の生徒の姿 ～抜粋～

番号	自分に関すること	あてはまる (%)	どちらかといえばあてはまる (%)
(4)	携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか。	47.1	34.3
(7)	自分には、よいところがあると思いますか。	42.9	44.3
(9)	将来の夢や目標をもっていますか。	47.1	25.7
(11)	難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか。	30.0	47.1
(12)	人が困っているときは、進んで助けていますか。	61.4	35.7
(15)	人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	80.0	14.3
(20)	家では自分で計画を立てて勉強をしていますか。	34.3	41.4
(29)	今住んでいる地域の行事に参加していますか。	42.9	38.6
(30)	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか。	17.1	51.4

【質問紙から感じられること】

◎自分自身を肯定的にとらえ、将来の夢や目標をもって学校生活を送っている揖斐川中生の様子が見られる。(7) (9)

◎難しいことにもあきらめず取り組むことで、自分を高めようとする意識が垣間見られる。(11)

◎地域行事への参加率では、コロナの影響を受けている中、岐阜県や全国の平均を大きく上回っている。(29) また、地域や社会に対し、自分で何ができることを探ろうとしている生徒も半数程度存在する。(30)

◎「人が困っているときに助ける」「人の役に立つ人間になりたい」など、やさしい心で人と関わられる生徒が多い。(12) (15)

▲生徒は「自立的な学習・生活ができている」と感じている。(4) (20) しかし、学力的には十分な成果に結びついていなかったり生活リズムが崩れたりしている。そのため、守る基準を共有しながら成果につなげていく必要がある。